

令和7年度小平市立小平第五中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

全体の正答率は全国平均より 1.7 ポイント高い。特に、文の推敲に関する問題の正答率は 8.6 ポイント、論理の展開に関する問題の正答率は 7.2 ポイント全国平均を上回った。

表現の工夫に関する問題では 4.2 ポイント、根拠を明確にし意見する問題では 6.2 ポイント全国平均を下回った。

自身の意見を発表するなど、人前で話す力を一層育む必要がある。また、根拠を明確にして自分の考えを示すために、「理由付け」の学習をすることが必要である。

また、無回答率と正答数の分布から国語に関する力の差が大きいと推察されるため個別指導を大切にしていく。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・発表の機会を意識的に取り入れ、発表する力を身につける。
- ・根拠とその理由付けを意識させ、生徒が思考できる時間を十分に確保した学習を多く取り入れる。
- ・個別の指導が必要な生徒については、個別・グループでの学習活動に際して適宜助言を行うとともに学習活動に取り組む中で既習事項の確認ができるような課題設定を行う。

【数学】

状況の分析

課題

全体の正答率は全国平均より 5 ポイント高く、15 問のうち全国平均を下回った問題は関数とデータの活用と、確率の 3 問であった。全国平均を下回った問題の共通点は、それぞれの分野での応用問題である。また、無回答率を全国と比較すると、無回答率はすべての項目で全国平均を下回っていた。

左記の通り、データの活用と関数の分野において応用問題が課題である。問題文が長い、式の形が複雑であると、その問題を考えることをあきらめてしまう生徒がいる。基本的な知識をどのように活用するかを問う問題を出题し、個人学習、グループワークなどを交えてじっくりと考えさせる必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・基本的な内容の小テストを單元ごとに行い、応用問題を解くための基礎知識の定着を図る。
- ・応用問題を取り組ませる際に、生徒の実態に合わせた学習プリントを活用したり、グループ学習の時間を適宜とったりすることで、応用問題に粘り強く取り組む姿勢を育む。
- ・解き方を生徒に発表させることで、様々な解き方を知る機会を与え、その問題への理解を深める。

【理科】

状況の分析

課題

身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる設問に対しては全国平均より 4.3 ポイント高く、大きく上回る正答率となったが、塩素の元素記号等、知識を問う問題では全国平均を下回るものもあった。

課題を設定したり、考えたりする力についてはついてきているものの、化学反応やボーリング調査に関する事項などの問題から、知識の定着が不十分であることが分かった。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・ 定期考査で知識を問う問題を試験範囲の中から満遍なく出題する。
- ・ 単元が終わるごとに、その単元の知識を復習する機会を設ける。
- ・ 授業の中で、考える時間に多くの時間を割いてきたが、そればかりではなく、知識を活用して問題を解く時間等を確保する。

【質問紙】

状況の分析

課題

1, 2 年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をほぼ毎日使用していたと回答する割合が、全国平均と比較して 21.8 ポイント高い傾向にありあった。ほかにも ICT 関連の質問に高い水準で回答しており、ICT の活用が進んでいる様子が伺える。また、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答する生徒の割合は、全国平均より 2.7 ポイント高くなっている。一方で、困りごとを大人に相談することや読書週間の形成に課題がある。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答する割合が、全国の公立学校と比較し、13.7 ポイント低く、生徒が困りごとや不安を学校の大人に相談しにくいと感じている現状を示唆している。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国平均より 11.8 ポイント低い。さらに読書が「好きではない」と答えた生徒の平均が、9.4 ポイント高かった。

学校で取り組む具体的な改善策

生徒が困りごとや不安を大人に相談しやすくなるよう、生徒との信頼関係構築とコミュニケーション機会を創出していく。生徒が相談しにくいと感じる背景には、教師や学校の大人との信頼関係の不足や、相談する機会の少なさがあると考えられる。そのため、定期的な面談や日頃の生徒とのコミュニケーションを密にし、生徒が話しやすい環境を整えていく。また、生徒の悩みや変化を早期に把握するため、保護者との情報共有や連携を密にし、学校で利用できる相談窓口やサポート体制について保護者にも積極的に情報提供し、家庭と学校が一体となって生徒を支える体制を構築する。

読書習慣については、朝読書を継続する。基本的な言語能力を養い、協働的な学習の素地とする。さらに日頃の授業では講義形式の教師の一方的な授業から脱却し、生徒が主体的に考え、学習を進め、課題の解決や、合意形成を図りながら課題解決する力を養う。